

地平線

全日本港湾労働組合
関西地方建設支部機関誌

2020年9月20日 363号

全日本港湾労働組合関西地方建設支部

〒552-002

大阪府大阪市港区築港 1-12-27

電話 06-6572-2105 / FAX 06-6574-5648

kensetsu @ crux. ocn. ne. jp

第48回建設支部定期大会をむかえて

昨年の今頃第47回の大会をみんなで和やかに楽しく開催しました。そのときはいわゆる「普通の日」「日々の日常」の世界でした。何の変哲もない生活が普通に続くと当たり前に考えられていたことがいまでは「夢の世界」となって、「with コロナ」なる「新日常」という「隔離・監視」されるような毎日をくらさなければならぬようになっていきます。

人々が生きたあかしとして誕生日を祝うように労働組合も年次集会として大会があります。飲食禁止とか多人数集会の自粛要請とか社会的活動の全般的抑制が求められている環境下で、形式的には簡素化しながら是非とも成功裏にひらいていきたいとおもっています。「いまこそ仲間同士でいろいろ話し合える場が大切」だとおもいます。

「数百年に一度しかないような災害が毎年襲ってくる」「ありえないことが何度でも起きる」今年も九州・東北で線状降水帯が張り付いた豪雨によって堤防の決壊による大洪水がおきました。その傷口がいえない九州に9月になって台風

10号が「これまでにない暴風と雨」がおそいました。「命の安全のための避難命令」が何度も発令される時代になりました。

「安倍時代がおわりました。」

8月28日、突如安倍総理大臣が持病である潰瘍性大腸炎の再発悪化によって「任に堪えない」として辞職するという会見を行いました。

アベノミックスもうまくいかず、「難問山積」で、これから長期化するコロナウィルスとの闘いを考えると体調不順では大変だと思い「同情心」もわいたのですが、その後の後継者選任の手際良さを見るにつけて、安倍政治の利権・焼け太り三派・五派(二階派・麻生派・安倍細田派・竹下派・石原派)のインサイダークーデターみたいな形で菅新政権が生まれました。安倍政治はやめるに際しても「転んでもタダではおきない」ような、なんかたくらみがあったと思われています。権力中枢ではモリトモ・加計・桜・河合夫婦の買収事件など「犯罪」もろだしの隠さなければいけないことがいっぱいあるでしょう。そういう意味での新政権は安倍

政治以上に質が悪そうです。

あり得ないことと思うけどまた新しい「薬」ができて元気になったのでプーチンばりの「再登場」みたいな話にならないように願いたいものですが。・・・安倍晋三なら「改憲のためもう一度」なんてないとも言い切れません。

どうしても「しくまれた辞任」と勘繰られる中に2か月以内にせまったアメリカの大統領選挙との絡みを指摘する評論家がおおいです。玄人筋の多くが「トランプの逆転」を予言していますが、意外と「常識人のバイデンが勝つ」こともありえます。かりにトランプが2度目の逆転劇をおさめても2期目のトランプは「同盟国にとてつもない分担」を求めてくるのは必定で、米国と中国との覇権抗争の矢面に日本も付き合うように求められることだし、世界もアメリカ自身もトランプの非常識に付き合うことができないと声をあげているなか「トランプの最後の友安倍晋三」も今辞めれば傷つくのが小さいとの判断もありそうです。

アメリカの左派も右派もマシンガンで武装した民兵の争いになっていて「南北戦争以来の内戦」の様相になって「法と秩序」「軍の投入」というマッチョなトランプが急速に支持率を回復しているとされます。どこまで世界の暴君とお付き合いするのかはこの国の為政者にとって難しい判断だと思います。

8年前政権を安倍自公政権に奪われた民主党政権。3年前に民進党の解党と希望の党の茶番劇での壊滅状態の民主陣営も野党共闘の積み重ねの中で、小選挙制度のもとでの与党と対決する陣形づくりの

合流新党結成にこぎつけました。国民の信頼をもう一度取り戻すための努力を続けてほしいものです。いっぽうで「維新」とか「新撰組」とか時代がかった政党が生まれていますが、徳川幕藩体制のおわり、長期の体制が崩壊して新しい時代がくると国民も感じているからだと思います。

新型コロナの時代

昨年末中国武漢で発生した covid19 新型コロナウイルスが世界的な感染爆発パンデミックスを引き起こして、あれよあれよという間に「人類全体が身動きできぬほど」猛威の嵐の中に取り込められてしまっています。9月10日現在全世界で感染者役2700万人 死者87万人で増加の勢いは止まりません。第一波を「うまくかわした」といわれた日本でも再拡大を引き起こして感染者が73242人になり、少ないと言われる死者も1411人というレベルにあがっています。

2月に「今年の花見どうしょう」「なんか中国でややこしい病気がはやってきた様だけど、一月もたてばおさまるんちゃうんか」などと話していました。数か月で通り過ぎて解放されるだろうと言う楽観的な考えが打ち壊されて、この得体の知れぬ遺伝子情報が刻まれた「生物なのか?生物でもないような?」「人間を懸け橋として自己増殖する『タンパク質』の微生な物質がその総体として、あたかも「意志を持った存在」かのようなふるまいをしながら「変異を繰り返しながらも」人間全体をあざ笑うかのような生態を持ってわれわれ人間の弱点をついて苦しめ続けているようです。

人間のほうも英知を尽くして、このウイルスの解明と対処方法を模索していて、さまざまな仮説を持ってアプローチが続けられています。しかし「特効薬」も「ワクチン」ももう一つでかなり危うい「開発競争」にあります。「効果性」「安全性」を考えるともうすこし慎重性が求められそうです。

東京五輪の中止が決まれば、そんなにあわてることもなくなりそうですが・・・

それでも日進月歩、一進一退、試行錯誤で世界中の科学者が努力していて少しずつ得体のしれない新型コロナウイルスとの対処法を考えながら、いわゆる「WITH コロナ」という長期的戦略を持って打開の道が模索されています。この戦いは何年もかかりそうですが、人類はなんとか生き延びれる知恵と力を蓄えているとおもいます。

経済的打撃は何年も続き、年々悪化する

世界中で国境閉鎖、人の往来がとまり、物流も停滞してしまっていて、経済活動がマヒする事態になりました。国際交通がいつ再開されるかわかりません。国内の消費活動も最低限のものしか許されないことになりました。

経済破綻と失業・雇用不安がたかまる一方です

これも 1929 年の「世界大恐慌」の何倍かの規模の経済危機ともいえます。富の蓄積が 100 年間で違うので、国民にお金を配ったりしてまだ耐える力があるのですが、限界に達する国も出てきて楽観できる状況ではありません。日

本でも「緊急事態宣言」はお金がかかるので 2 度と出したくない。「国民の自粛と自己犠牲でのりこえてくれ」ということで PCR 検査もなるべくしないで数を抑えようとかいうことをやっているようなので、相当長期間の暗黙の「自粛強制」の生活が求められ続けるように思います。

新型コロナの感染防止を徹底すると「人と人との接触の制限」いわゆる社会生活上の制限と自粛という問題になっています。

経済恐慌に政治的対立・そしてコロナ禍、かつてない試練を受けて各国の指導部も民衆も苦しみの中から方向性をみいだそうとしています。求められるのは「国民の政治的選択」それぞれの国の政治的質がためられそうです。

労働組合が「頼りになる」存在となれるかどうか

巷では今回のコロナ禍で苦しんでいる人であふれかえっています。頼れるところはどこにもない。不安と悩みで行き場のない人にわずかな心の支えになりえるような労働組合でありたい。こうした思いをつなげて今年度 1 年の運動を進めていきたいと思っています。

労働界全体が、たいがいの労働組合とも大人数の会議・催し物はとりやめになっているようです。ほとんどが少人数の会議になっています。

いつまで続くかわからない状態になっていますが、それぞれの組合ともそれぞれの会社の経営状態や仕事のありかたに細心の注意をはらって労働者の雇用と労働条件に関する情報把握をしつ

かり努めたいとおもいます。

建設支部としてもラインを使った情報交換、オンライン会議の実験やインターネットでのホームページの再開なりをとりくんでみました。これからもできることはなんでもやっていきたいとおもいます。

財政部から、共済基金を利用して全組合員への激励金の還付、「自主運営分会」への激励見舞いが提案されています。

コロナ禍における労働組合活動

とりあえずは関連する問題の学習を深めたいとおもいます。たとえば、雇用調整金の制度や各種補助金の学習、雇用情勢の情報の収集・最低賃金情報、コロナ解雇の実態など。

地域友好団体との連帯、情報交換

全日建連帯関西生コン支部争議弾圧反対、沖縄辺野古基地反対闘争、護憲・日韓・日朝友好運動。さまざまな地域課題を闘っていきます。

西成分会の活動

去年5月24日に支部の50周年を催しましたが、西成分会としても50周年。ビラまき活動を月・木の週2回朝5時から6時30分 年100日のペースで行っています。50年プラス2年目です。51回目の釜ヶ崎メーデーを地域の仲間に広げてメーデー民衆実行委員会主催としてコロナ下、ソーシャルディスタンスでデモを盛大にやりきりました。かつての巨大なセンターが閉鎖され新しいセンター(ちいさくなった)

の建て替えプランが進んでいます。日雇い労働市場としてどれだけのものが作られるか注視しています。

5年前の住民投票で否決された「大阪市を廃止するための都構想」が強引な形で11月1日に再度住民投票にかけられることとなりました。都市形成にあたっての歴史や文化を無視して目先の利益のためだけの暴挙だと思います。こんなことで経済効率どころか全くの無駄にしかならず、広く市民と連帯して反対していききたいと思います。

太平ビルサービス分会、堺化学分会、宝塚分会、樋口商店分会の活動

ビルの清掃、警備、設備管理。産業廃棄物やし尿の処理。建設支部には、社会機能を維持し、私たちの生活を守るために、最前線で働いている方がたくさんいます。堺化学分会、宝塚分会は、コロナ禍の中でも、春闘、春・夏の一時金において昨年と同額の回答を勝ち取りました。樋口商店分会は、春闘こそゼロ回答でしたが、夏・冬の一時金においては、昨年同額の回答を勝ち取り、4月には会社から「コロナがんばり手当」が支給されました。

太平ビルサービス分会は、春闘・夏冬の一時金ともに昨年の実績を大きく下回りましたが、コロナで休業を余儀なくされた従業員に対して、100%の賃金補償を勝ち取りました。また、会社「ビルメンテナンス業における新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」「警備業における新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」に基づく感染予防対策を行うよう要求し、実施す

るとの回答をえました。支部・分会は、休業を余儀なくされる労働者に対する賃金の補償と新型コロナウイルスの感染予防策の実施を引き続き要求していきます。

三座分会・古川分会の活動

三座分会、古川分会は、「在宅勤務と出社にグループ分けをし、隔日出勤とす

る」(三座)、「テレワークの検討」(三座)、「新型コロナ感染症特別貸付の申請」(古川)など、コロナ禍の中でも、工夫をしながらねばり強く自主運営を続けています。

いろいろな制約を乗り越えて働く者の権利のため団結をたしかめましょう。



今後の予定

9/14 (月) 15:00	ユニオンネット運委 (北浜)
9/15 (火) 13:30	地本執行委員会
9/17 (火) 18:30	ピョンヤン宣言かから18年 日朝国交正常化を求める大阪集会 (エル大阪南館)
9/24 (木) 9:00	全港湾第91回全国大会 (豊橋) ~9/25
9/25 (金) 18:00	弁護士・相談会
9/27 (日) 10:00	建設支部第48回定期大会 (PLP)
10/5 (月) 18:30	支部執行委員会
10/8 (木) 8:00	労働組合つぶしの大弾圧を許さない! 10/8 関生判決・座り込み集会 (大阪地裁前)

辺野古（沖縄）報告

フジタ分会

建設支部の皆さん、お久しぶりです。夏季研修会が新型コロナで中止となりましたので、簡単に辺野古報告をいたします

辺野古新基地の工事の現状

政府が辺野古新基地建設工事に着手して、7年目となりました。この間、彼らがやったのは、遠浅の辺野古側（写真の手前側）に護岸を造り、その一部を埋め立てたことです。今年の夏には埋め立て完成などと言っていたましたが、現状では年内は無理だと思います。

埋立用の土砂は、沖縄島西海岸・名護市安和の琉球セメント栈橋と本部町塩川港の2か所から運搬船で、北回りや南回りで大浦湾まで運び、台船に積み替えて接岸しダンプで埋立場所まで運ばれています。安和・塩川では私たちの仲間が抗議行動と監視を続けており、7月は運土量が大幅に増えたそうです。

一方、辺野古の護岸では嵩上げ工事が進んでいます。護岸の上にL型のコンクリート擁壁（高さ4m）を6月下旬から作り始めました。つまり、防衛局はやり易くやれる処からやるという体制だと思われます・

現地の粘り強い反対運動は続く

辺野古ゲート前での座り込みは、2014年7月から7年目を迎えました。現在、新型コロナ禍、大衆的な抗議行動を控えています、県民の民意を反映した闘いが続いています。カヌー隊や抗議船の海上行動も、辺野古・大浦湾での行動とともに、安和栈橋でも土砂運搬船を止める闘いが週3回行われています。勿論、安和栈橋・塩川港での陸上でダンプを止める抗議行動が続いています。

沖縄防衛局は、7月、海上作業員に新型コロナ陽性者が出たにも拘わらず、工事を中断しようとしていません。県民の民意や度重なる沖縄県の行政指導を無視し工事を強行しているのです。

4月に提出された設計概要変更申請

コロナ禍の4月21日、防衛局は変更承認申請を姑息にも名護市にある北部土木事務所に予告なく提出しました。

設計概要変更承認申請とは何でしょうか。すでにご存じのように、大浦湾には軟弱地盤があり、現設計では工事ができません。このことを政府はやっと昨年認めました。設計変更は沖縄県知事の承認を新たに得る必要があります。翁長前知事の遺志を受け継いだ玉城デニー知事は不承認を公言しています。ここを崩さないと新基地は出来ません。政府の焦りが手に取るようにわかります。

防衛省は9300億円（当初の約4倍）の工費、12年を超える工期、問題だらけの工法を申請しています。不利な事実は隠し、御用専門家を使って「工事可能」と主張、専門家グループは震度1でケーソン護岸が崩壊すると指摘しています。生物多様性の宝庫といわれる大浦湾に砂グイ7万本も打ち込むなら環境に影響しないはずはありません。しかし、環境再評価は必要ないと御用学者は言うのです。こんなデタラメはもうまっぴらだと沖縄県民は怒っています。

支部の仲間の皆さん

変更承認申請を認めず、政府の次の弾圧とも闘おうとしている沖縄県知事・県民に本当に寄り添い、基地はいらない、民意を聞けという声を支援していきましょう。オール沖縄会議は「変更申請はココがオカシイという意見書を知事へ届ける」よう呼びかけています。9月に始まります。ご協力お願いします。



辺野古上空からみた状況
沖縄タイムス8/8より